

明治三十二年二月三日午後二時八分開議

○委員長(新井啓一郎君) ツレデハ開會致シマス、サウスルト政府委員カラ
何カ仰シヤルコトガアレバ、先ニ御説明ヲ聞イテ、ツレカラ質問トシタ方ガ
宜カラウト思ヒマス

○政府委員(森田茂吉君) 別ニ何ニモナイノデス、唯此ノ法律ハ御承知ノ通
リ、アチラデハ裁判ノ構成ガ僅ニ二級審ニナツテ居リマス、即チ總督府法院
ト覆審法院トデ、サウシテ或人種ニ向ツテハ、民事訴訟法ト刑事訴訟法ハ行ッ
テ居リマス、其民事訴訟法刑事訴訟法ハ、上告トカ再審ノ道ガ開イテアルノ
デアリマス、所デ裁判ノ構成ガサウ云フ有様デアリマスカラ、民事訴訟法等
ヲ完全ニ行フト云フコトニ就イテハ、少シ缺點ガアルノデ、ツレデ大審院ヲ
結付ケタラ宜イト云フコトデ、此モノヲ出シタノデアリマス

○(花井卓藏君) 既ニ大勢ハ定ツテ居リマスガ、併シ私ハ法律ニ關スル重大
ノ問題ト思ヒマスカラ、十數點ノ質問ヲ致シタイト思ヒマス、別ニ大勢ガ定
テ居ル以上ハ、議論ハ致シマセヌガ問題ダケヲ致シテ置キマス、過日本會ニ
於テモ、ドナタカノ御質問ガアリマシタガ、臺灣ハ二十九年ノ五月一日ノ律
令第一號ノ第二條、並ニ第三條ノ末項ニ規定シテゴザイマス通り、上告覆審、
即チ高等法院ト云フモノガアッタノデゴザイマスガ、ツレヲ三十二年ノ七月
十九日ノ律令ノ十六號ヲ削除セラレテ居リマス、其削除セラレタニモ拘ラ
ズ、今又本案ノ如キ法律ヲ出サウトセラル、ノハ、如何ニモ朝令暮改ノ甚シ
キモノデアルト私ハ信ズルノデゴザイマスガ、其等ノ邊ニ就イテ、二十九年五
月ノ當時、並ニ三十一年七月ノ當時、並ニ唯今本案ヲ提出セラル、問ニ於テ、
或ハ上告審ヲ必要トスベキ場合ヲ生ジ、若ハ必要トスベカラザル場合ヲ生ジ
今又必要トスベキ場合ヲ生ジタト云フコトニナルト、如何ニモ法律ヲ制定ス
ルト云フ事柄ガ滅茶々デアルト信ズルノデゴザイマスガ、其邊ノ消息ヲ承
リタイノガ一ツデゴザイマス

○政府委員(森田茂吉君) 御答シマスガ、此臺灣ノ裁判構成ニ就キマシテ
ハ、始メカラ此三審法ヲ採ルト云フ事柄ニ極ツテ居リマシタノデ、昨年六月
ニ現總督ガ赴任シマシテ、ツレカラ種々ノ改革ヲシナケレバナラヌコトニ
ナツテ、凡ソ三百餘萬圓ノ減額ヲシナケレバナラヌ、其場合ニ有リトアラユ
ル點ニ、此削減セラル、モノハ手ヲ著ケマシタ、其當時高等法院ニ出マスル
裁判事件ノ數ハ極メテ少數デアアル、殊ニ外國人ニ關スルカ、内地人ニ關ス
ルト云フヤウナモノハ至ツテ少ナイ、其少ナイモノニ三萬幾千餘圓ノ錢ヲ
使ツテ置ク必要モナカラウ、ツレカラ同ジ民刑法、並ニツレ等ノ附屬法ヲ行
フニ就イテ、彼方ニモ大審院ガアリ、此方ニモ大審院ガアルト云フコトデア
レバ、同一ノ法律ニ就イテ解釋ガ出來ヌコトニナツテ、帝國ノ法律ノ法理ヲ

統一スルコトガムヅカシイ、ト云フヤウナ譯カラ廢スルコトニシヤウ、併シ
此廢スルト云フニシタ所ガ、ドウシテモ三審法ト云フ法ハ貫カナケレバナラ
ヌ、是ハ立法ノ即チ議院ガ開ケルノヲ待ツテ、大審院ニ結付ケル、法律案ニ
シタラ丁度宜イカラ、併シ經費ノ節減ハツレ等ハ待ツコトハ出來ヌカラト云
フノデ、節減スルモノダケハ節減ヲヤツテ仕舞ツテ、今度之ヲ出シタノデ、
其時分ハ二審ニシテ宜イカラ止メテ、此度ハ三審ニシナケレバナラヌカラ置
イタト云フノデナク、其度毎ニ、即チ二審ニスル際ニモ三審ニシナケレバ
ラナカッタノダガ、三審ニスルニ就イテハ大審院ニ結付ケルト云フ法律案
ヲ、立法ノ議會ノ開會ノ時期ニ出スガ宜イカラト云フ、内輪ノ極メガアリマ
シタカラ出シタノデ、或ハ二審ニスル、或ハ三審ニスルト云フ區々ニナツタ
ノデハナイノデゴザイマスカラ、ドウカ左様御承知ヲ願ヒマス

○(花井卓藏君) 尙ホ續イテ御尋ヲ致シマスガ、此三十一年ノ七月ノ十九日
ト云フ日カラ、今日迄ハ臺灣ニ居ル所ノ人民ニ對シテハ、隨分長イ月日デア
ルト信ジテ居リマスガ、法律上ノ救濟ヲ御與ヘニナラナカッタノハ、此律令
ノ證明スル所デアリマスガ、人身ニ關スル重大ナル法律上ノ救濟權ヲ、殆ド
半年以上モ與ヘズニ置カル、ト云フ事柄ハ、隨分六十三號ナドト云フ過大
ナル權限ヲ與ヘラレテ居リナガラ、怠慢極マル處置ト思ヒマスガ、其事實ヲ御認
メニナリマシタカラ、其事實ヲ御認メニナツタガ故ニ、言葉ヲ換ヘテ言ヘバ
其事柄ノ惡キコトヲ悟リタルガ故ニ、此法案ガ出タト云フ事柄ニ歸著スルノ
デアリマスガ、六ヶ月位ノ間ハ人身ニ關スル重大ナル裁判權ハ、奪ツテ置イ
テモ一向法理ニ悖ラヌ、帝國ノ威信ニ差支ナイ、構ハナイト云フコトデゴザ
イマスガ、

○政府委員(森田茂吉君) ツレデ先程申シマシタ通り、二審ノ制ニシタト云
フ時ニ、既ニ三審ノ制ハヤラナケレバナラヌガ、立法ノ時機ヲ待ツト云フノ
デ、其時分ハ此上告ナリ若クハ再審ヲ上告裁判所ニナシ得ルト云フ事柄ハ、
唯臺灣ニ於ケル總テノ住民ニ向ツテ、サウ云フコトヲシタカト云フト、極メ
テ少數ナ人種デ、即チ日本人ガ僅ニ二萬人足ラズノ人、外國人ハ五十人内外
ノ人デ、ツレ等ノ人ハメニ、丁度此三審法ヲ行フト云フコトノ主義ニ
ナツテ居ル、ツレガ實際ノ有様ヲ見マス、即チマダ高等法院ガアリマシタ
時ニ、二箇年間ノ總計ガ二十四件位ノモノデ、外國人ニ關シテハマルキリ無イ
ノデゴザイマスカラ、一件アリト雖モ權利ノ伸張ヲ妨ゲタト云フ御議論ナラ
バ止ムヲ得マセヌガ、片一方デハ經費ヲ參百餘萬圓節減シナケレバナラヌ、
其際總テノ點ニ手ヲ著ケタモノデスカラ、甚ダ遺憾デハアリマシタケレド
モ、其際ニ斷平トシテ經費ノ節減ヲヤツテ、之ヲ大審院ニ結付ケル時期ハ、
立法ノ時期ヲ待ツト云フコトニシマシタカラ、極テ殘酷ナ御議論トシテ、一

件アツテモ權利ノ伸張ヲ妨ゲタカラト云フ御議論ナラバ、政府委員ハサウ、
デハナイト云フテ答辯スルカハナイノデス、唯事情ハサウ云フ有様ニナツテ
居タト云フコトヲ申上ゲルダケデス

○(花井卓藏君) 殘酷ナ御尋ハシテ居リマセヌ、短ク御尋スルノデアリマス
ガ、其間上告權ヲ人民カラ奪ッテ置イタ趣義ハ、經費ト云フモノニ困ルカ
ラ、各人ノ權利ハ經費ノタメニハ奪ッテモ差支ナイト云フ、微妙ナル法理カ
ラ御案出ニナリマシタカ、他日總テノ法律ヲ解釋スル上ニ大ナル間違ヲ來タ
ス、帝國ノ法律ノ中ニハ隨分便宜ヤ經費ニ措ハヌデモ、權利ヲ見ナケレバナ
ラヌモノガアル、寧ろ全部ツレデアルノニ、臺灣ハ矢張新領土デアルト云フ
ノデ、新シキ例外、新例外ト名クベキモノデモ御ヤリニナツテアッタノデゴ
ザイマスカ

○政府委員(森田茂吉君) 唯今申述ベマシタ事實ヨリ外ニ無イノデゴザイマ
スカラ、左様御承知ヲ願ヒマス

○(花井卓藏君) ツレカラ尙ホ一ツ御尋ヲ申シタイノハ、私共ノ考ニ致シマ
スレバ、別ニ議論モゴザイマスガ、兎ニ角臺灣ト云フ所ニハ法律六十三號ト
云フモノモアリマシテ、諸般ノ法律ト云フモノガ、律令デ作ルト云フコトニ
ナツテ居ル、而シテ裁判所ニ於テモ、三十一年律令第十一號ニ依ツテ作ツテ、
内地ト組織ヲ異ニシテ居ル、サウシテ、臺灣デハ、地方法院ト云フノモ覆
審法院モ、法院條令ニ基キタル裁判所デアアルノデゴザイマス、然ラバ其三審
モ矢張法律ヲ異ニシ、裁判ノ構成ヲ異ニスル所ノモノデゴザイマスルガ故
ニ、矢張臺灣ニ高等法院ヲ置クト云フ事柄ガ、寧ろ法律ノ統一ヲ計ルト云フ
ガ如キ趣意ニ背イテ居ラウト思フ、デ此分ダケヲ大審院ニ持ッテ來ルト云フ
コトニスレバ、矢張臺灣ニ一審裁判所ニ置クトハ、尙ホ内地ニ
於ケル所ノ組織ガ、寧ろ穩當デハナイカト云フ考ヲ持ッテ居リマス、單ニ考
ノミナラズ理窟トシテ間違ナイト考ヘマスガ、唯一ツ三審ダケヲ持ッテ來ル
ト云フコトハ、如何ニモ變ニ思フカラ御尋ネスルノデアアル、尙ホ便宜ヲ計ル
タメニ一言シテ置キマスガ、法律ノ統一ヲ計ルガタメニ大審院ヘ持ッテ來ル
ト云フ御答ヒガアルカ知レマセヌガ、ツレハ御答ニハナラヌノデ、一体法律
ノ統一ヲ計ルト云フノハ、臺灣ニ關スル法律問題ニハ一切持ッテ來ルコトガ
出來ヌ、法律ノ統一ヲ計ルト云フコトデアレバ、六十三號ノ法律ヲ出ス必要
ハナイ、又議會ガ協賛ヲ與フルノ必要モナイ、法律ノ統一ヲ計ルト云フノハ、
法律ノ解釋ノ統一ヲ計ルト云フ御趣意ナラバ格別、唯法律ノ統一ヲ計ルト云
フノデハ、左様ナ事柄ハ到底言フベキコトデアアルマイ、又更ニ法律ノ解釋ノ統
一ヲ計ルトシテモ、日本ノ政府委員ハハッキリシタ答辯ハ出來ヌ事柄ダラウ
ト思フ、ト云フモノハ内地ニ於テモ法律ノ統一ヲ計ッテ居ナイ、寧ろ法律ノ
解釋ノ統一ト云フモノハ、今ノ制度ニ依ルト七ツバカリ出來テ居ルノデア
ル、日本デハ大審院ガ寧ろ法律ノ解釋ノ統一ヲスル所デアアル、或事件ニ於テ
ハ六ツバカリアルノデスガ、其控訴院ニ於テ各、異ナル法律ノ解釋ヲシテモ

差支ナイト云フノカ、ツレデハ法律ノ統一ヲ計ル、解釋ノ統一ヲ計ルト云フノ
ハ少シ筋ガ立ツマイト思ヒマスカラ、其邊ノ御意見ヲ伺ヒタウゴザイマス

○政府委員(森田茂吉君) 解釋ニ就キマシテハ、別段ニ私カラ申上ゲルコト
ハナイノデゴザイマス、殊ニ御議論ニ涉ルコトニ就イテハ今此處デ彼是申上
ゲルコトハアリマスガ、詰リナゼ法律ノ解釋ノ統一ヲ計ルタメニ、此處ヘ持
テ來ルカト云フコトニ就イテ、花井君ニ申上ゲテ置キタイコトハ、成程臺灣
ノ總テノ法律ハ内地トハ違ッテ居リマス、ツレ故ニ大審院ヘ持ッテ來ルノハ、
統一ヲ計ルト云フコトハ言ヘナイデハナイカト云フ御議論ノヤウニ思ハレマ
スガ、此民法、商法、刑法、是等ノ法律ハ臺灣ニ於ケル内地人及外國人ニハ、
内地ト同ジ法律ヲ行ッテ居ルノデアリマス、其法律ノ解釋ニ就イテ、高等法
院デハ斯ク言ヒ、大審院デハ斯ウ言フト云フコトニナリマスルト、同ジ民法
商法刑法デアリナガラ、適用ヲ二ツニシタリスルヤウナコトガアツテハ面白
クナイ、ツレ故ニ其適用ニ就イテ總轄力アル大審院ヘ持ッテ來ヤウト云フ考
デ、持テ來マシタノデアリマス……

○(花井卓藏君) チョット途中デスガ、御注意シテ置キマス、民法商法ナド
ト云フモノハ、其法律自體ガ臺灣ニ行ハレテ居ルノデナク、則チ六十三號ト
云フ法律律令ガ行ハレテ居ルノデアリマスカラ、御注意ヲ願ヒマス

○政府委員(森田茂吉君) 勿論律令ガ行ハレテ居リマスガ、ツレハ形ノ上ノ
御議論デ、内容實質ニ於テハ同ジヤウニ行ハレテ居ルノデアリマス、ツレデ
同ジコトヲ解釋スルノニ高等法院デハ右ト言ヒ、大審院デハ左ト言フヤウナ
コトデハ、同ジ民法ノ法文ガ二ツニナルト云フ不都合ガアリマスカラ、大審
院ニ持ッテ來タノデアリマス、デ此民法ノ中ニ就キマシテモ、土地ニ關スル
事柄ニ就キマシテハ、尙ホ御參考マデニ申上ゲテ置キマスガ、或ハ小訴權ト
云フモノガアリ大訴權ト云フモノガアリマシテ、日本ノ内地ノヤウナ完全ナ
ル所有權ト云フモノハアリマセヌカラ、多少風土及從來ノ慣習ニ依ッテ違ッ
タ點ガアリマスル、ケレドモ大體ニ於テハ民法商法刑法ノ内容、即チ實質ガ
違ッタ形ニ行ハレテ居リマスカラ、左様御承知ヲ願ヒマス

○政府委員(石渡敏一君) 花井君ノ御說デスガ、實ハ内地ニ於テ三審制度ヲ
取ッテ居ル、以上ハ臺灣ニモ矢張三審ノ制度ヲ採ラナケレバナラヌガ、經費ノ
點デモツテ臺灣ニ特別ノモノハ置ケナイカラ、内地ノ大審院ヘ上告ヲ持ッテ
來ルト云フダケガ、大趣意ダト思フノデゴザイマス、ナゼ三審制度ヲ置クカ
ト云フコトニナリマスルト、内地ノ裁判所ニ三審制度ヲ採ルノガ、ドウ云フ
理窟カト云フ問題ト同ジ結果ニナツテ來ハシマイカト考ヘマス、其邊ニナリ
マスルト少シ趣意ガ違ヒマスカラ、大體ノコトダケ申上ゲテ置キマス

○(花井卓藏君) 事實内地ニ於テ、法律ノ統一ヲ計ッテ居ラヌト云フコトヲ
御存ジデアレバ、追窮ハ致シマセヌガ、尙ホ御尋ヲシタイノハ、大審院ニ往
ケナイ上告事件ガアツタナラバ、其者ニ救濟權ト云フモノハ御與ヘニナラヌ
御趣意デゴザイマスガ、例ヘバ裁判所構成法ノ幾條カニ掲ゲテゴザイマスル

ガ、内地ニ於テモ一審ヲ經過シテ、三審ガ控訴院ニ繼續スベキ事件ガアリ
マスカラ、民事ニ於テモ刑事ニ於テモ、其分ダケハ此臺灣ニ於テハ上告權ヲ
與ヘナイト云フ法案ノ趣意デゴザイマスカ

○政府委員(森田茂吉君) 法案ノドノ點ニ就イテノ御質問デアリマスカ

○(花井卓藏君) 法案ノ第一條デス

○政府委員(森田茂吉君) 少シ聽取リカネマシタカラ、モウ一度願ヒマス

○(花井卓藏君) 第一條ニ「臺灣總督府覆審法院ニ於テ民事訴訟法刑事訴訟
法ニ依リ爲シタル第二審ノ結局判決ニ對シテハ大審院ニ上告ヲ爲スコトヲ
得」斯ウ書イテアル、ソコデ民事訴訟法ニ依ッテ上告スベキ事件ハ必シモ大
審院ニ限ッテ居リマセヌ、現行ノ法律ハ——ソレカラ刑事ニ於テモ程度ノ低
キ犯罪ニ於テハ、上告スヘキ裁判所ハ必シモ大審院ト限ッテ居ナイ、則チ或
事件ニ就イテハ上告審ガ控訴院ニ止ッテ居ルコトガアルノデアアル、臺灣ニ區
裁判所ナドハ有ルヤ無キヤ存ジマセヌガ、若モ此臺灣ニ區裁判所ガナイカラ
シテ、總テ一括シテ此地方法院ガ覆審判決ヲ採ルモノデアアルト云フコトニナ
ルト、日本内地デノ大審院デ、上告ノ權利ヲ救済シテ居ラザルニモ拘ラズ、臺
灣ノ者ダケハ内地人以上ノ上告權ヲ持ッテ、大審院ニ三審ヲ求メルト云フコト
ニ相成ル、斯ウ云フ法案ノ主義デアリマスカドウデスカト云フコトヲ御尋ス
ルノデス

○政府委員(森田茂吉君) ソコデ臺灣ニ區裁判所ト云フモノハナイノデアリ
マス、區裁判所ノ仕事ハ所謂地方法院デヤッテ居リマス、ソレデ内地デアリ
マスルト、區裁判所ノ第二審ガ地方裁判所デアアル、ソレノ上告裁判ガ控訴院
デヤッテ居リマス、トコロガ臺灣デハ區裁判所ガナリマセヌカラ、區裁判所ノ
仕事ガ即チ地方法院デ第一審ニナル、ソレカラ覆審法院ガ第二審ニナリマシ
テ、第三審ト云フノガ臺灣ニアリマセヌカラ、内地トハ多少其點ガ、御説ノ通
リ異ッタ點ガアラウト思ヒマス

○(花井卓藏君) ソレデ詰リ語ヲ換ヘテ言ヘバ、上告權ト云フ法律上ノ救済
權ニ就イテハ、臺灣人ト云フ者ハ内地人ヨリ優等ニ、ソレカラ内地人ハ臺灣
人ヨリ劣等ニ、法律上ノ救済權ヲ得ルノデアリマスカト云フコトヲ御尋致シ
マス

○政府委員(森田茂吉君) 御承知デモアリマセウガ、臺灣人ト云フノニハ此
法律ハ行ヒマセヌヤウナ結果ニナリマス、即チ臺灣ニ居リマスル人デ、民刑訴
訟法ノ適用ヲ受クルダケノ人ニナリマス、其人ニ就イテハ花井君ノ御説ノ通
リ、多少ノ違ヒガアルト云フコトヲ申上ゲテ置キマス、是ハ臺灣ニ於ケル裁
判所ノ構成ガ、内地ニ於ケル如ク、此事件ノ多少若クハ價ノ高下ニ就イテ、
區裁判所ニ行クモノ、地方裁判所ニ行クモノ、區別ヲシマセヌ結果デアリマ
ス

○(花井卓藏君) 宜シウゴザイマス、ソレデ私ノ問ガ尙ホ進ンデ來ルノデア
リマスカ、ソナコトヲシテ何處ニ法律ノ統一ガ出來ルノデスカ、不統一極

マルデハアリマセヌカ

○政府委員(森田茂吉君) 法律ノ統一デハゴザリマセヌ、即チ法律ノ解釋ノ
統一ト言ヒマスカ、其點ハ組織ガ違フタメニ、貸シタ金ハ矢張り何處ノ裁判
所ヘ行ッテモ貸シタ金デアリマス、詰リ構成ガ違ッテ居ルノデアリマス、其
構成ノ違ッタノハドウ云フ譯カト言ヘバ、臺灣ノ風土人情ガ違ッテアルガタ
メニ、構成ノ組織ガ内國ト違フト云フダケノ話デ、私共先程申上ゲルノハ、
法律ヲドウシテモ内地ト臺灣ト一緒ニシナケレバナラヌト云フコトハ、申ス
マデモナイノミナラズ、法律ヲ異ニセヌガタメニ、六十三號ノ協贊ヲ求メタ
次第デアリマスカラ……

○(花井卓藏君) ソレカラ尙ホ一ツ御尋シタイノデアリマスガ、是ハ本會デ
モ尋ネテ置キマシタガ、憲法ニモ關係ヲ有シ、裁判所構成法ニモ關係ヲ有ス
ルコトデアリマスカ、大審院ハ憲法ノ保障アル裁判官ノ判決ヲ受理シテ——
判決ニ對スル上告ヲ受理シテ裁判ヲスル所ナノデアリマス、然ルニ此臺灣ト
云フ所ノ、此法院ト云フモノハ、裁判所構成法ノ上ノ裁判ナルヤ否ヤト云フ
事柄ニ付イテ、政府委員ニ御尋ヲ申シマシタラ、或政府委員ハ勿論憲法ノ保
障アル裁判官デアアルト答ヘラレタ、確カ後藤君デアアルト承知致シマシタ、又
或政府委員ハ質問者ノ言ハル、ヤウニ、行政ト云ヘバ行政トナルガ、臺灣ノ
裁判所ハ憲法ノ所謂特別ノ裁判所ニ屬スベキモノデアアルト云フコトヲ言ハレ
マシタ、是ハ確カ石渡君デアアルト記憶致シマシタ、斯ノ如ク政府委員ノ法律
ノ解釋ガ抵觸シテ居ルニモ拘ラズ、マルデ納鑿容レザル亂暴極マル解釋ヲ取
ラレル事柄デ、私共此法案ニ向ヒマシテ意見ヲ述ルニモ困ルノデアリマス
ガ、一体總督府ニアル法院ハ、行政官廳デアリマスガ裁判所デアリマスカ、
チヨットソレヲ御尋シマス

○政府委員(石渡敏一君) 行政官廳デアッテモ、特別ニ大審院ニ是ダケノ權
ヲ法律ガ與ヘルナラバ、詰リ是ダケノ構成法ガ別ナモノニナッテマスカラ、
行政官廳ト見テモ差支ナイ、其點ハ私ガ前ニ申ス通り……

○(花井卓藏君) ソレナラバ私ハ頗ル感服シナイデス

○政府委員(森田茂吉君) 實際行政廳デハナイデスカラ、詰リ裁判法院條例
デ、此處ニアナタニ上ゲテアル通り、之ヲ御讀ミニナレバ、一見シテ是ハ行
政廳ガ裁判所カ御分リニナルダラウト思ヒマス

○(花井卓藏君) 尙ホ御尋シマスガ、石渡君ハ假ニ之ヲ行政廳ト見タ所デ、
大審院ヘ結付ケルト云フ事柄ハ、法律ノ規定ガアレバ差支ナイト云フコトデ
アリマシタガ、大審院ハ御承知ノ通り司法裁判所デ、決シテ行政裁判所デハナ
イノデアアル、サウシテ憲法上ノ此六十條並ニ六十一條等ヲ能ク讀ムデ見マス
ルト云フト、司法裁判所ヘ持ッテ往ッテ、行政裁判所ノ事件ヲ結付ケル事柄
ハ、寧ろ憲法違反トハ言ハヌ、憲法違反所デハナイ、憲法ノ上カラ解釋ノ取レ
ナイ主義ニ相成ルノデアリマスカラ、サウ云フヤウナ事柄ハ幾ラモ例ガアル
ノデアリマスカ

○政府委員(石渡敏一君) ツレハアルト思ヒマス

○(花井卓藏君) サウスルト例ノ小笠原島トカ、北海道ノ釧路トカ云フヤウナ分ハ、アレハ一體本案ノヤウナ場合ト同一ノ趣意ト御解釋ニナリマス

○政府委員(石渡敏一君) 私ノ考ヘル所ハ同シヤウニ取リマス

○(花井卓藏君) サウスルト六十三號ト云フモノヲ出スノハ、餘程變ニナル○委員長(新井啓一郎君) 花井君御議論デナク爲スツラドウデスカ

○(花井卓藏君) 議論ヲシナクツモ濟ムデシマフ、モウ澤山ハ問ヒマセヌ、サウ云フ趣意デスカラシテ尙ホ御尋申シタイデスガ、是ハ大切ナ點デスカラ、

第二條ニ此事件ノ差戻シノ規定ガアルノデスガ、是ハ内地ノ刑事訴訟法ニ依ッテ來ルト云フト、刑事事件ト云フモノハ唯一ツ外ニハ差戻シノ場合ハナイ、サウシテ唯一ツ外ニハ差戻シノ場合ハ臺灣デモ寧ロ起ラヌ問題デアル、又二條ノ趣意ニ致シマスルト、總テノ事件悉ク原法院ニ破毀ヲシタルトキハ、其ノ

事件ヲ差戻シタ事柄ニナルト、折角刑事訴訟法ガ行ハレテ居ル土地ニ向ッテ、一ノ例外ヲ來タスヤウナ傾キニナル、例外ヲ來タスヤウナ傾キニナルノハ、刑事訴訟法ヲ適用スルト云フ主義ニ、一貫セヌ點ニ付イテ私ハ甚ダ遺憾ニ思フ、ツレカラ第二ニハ原ノ裁判所ヘ破ッテ戻シタ所デ、裁判官ハ矢張り同ジヤウナ裁判ヲスルノデス、是ハ統計デ證據ヲ舉ゲヨト仰シヤレバ、私共ハ大審院ノ判決ハ、明治二十七年以來一件トシテ讀マヌモノハアリマセヌカラ、悉ク證據ヲ舉ゲテ議論モシタイノデスガ、ツレハ石渡君モ御存デアリマスカラ

省キマスガ、若モ其事件ヲ一ノ裁判所ヘ戻スコトニナツタラ、民事ノ事件デスラモ連モ大審院デ判決シタ通りニ、又上告シタ趣意ノ裁判ヲ得ルコトガ出來ヌノデアアル、ツレカラ差戻サレル場合ハドシナ場合カト云フト、唯單ニ手續ノミデアリマス、刑事訴訟法ノミデア言ヘバ、事件ノ實體ニハ何ノ響モナイ、ツレデアリマスカラ元ト死刑ヲ言渡サレタ者ハ、矢張り死刑ヲ言渡スノデアアルカラ、上告シタ甲斐モナイノデアリマス、唯ナマ殺シニシテ置カナイト云フニ

過ギヌノデアリマス、ツレ故ニツレヲ慮ッテ此日本ノ刑事訴訟法ハ、刑事事件ヲ一切差戻ヲ許サヌ、名古屋ノ事件ハ宮城、宮城ノ事件ハ箱館ニ移スコトニナツテ居ルガ、此件ニ限ッテ差戻スト云フノハ如何ナル理由デアアルカ、尙ホ重ネテ申上ゲテ置キマスガ、臺灣ノ覆審法院ハ一ツシカナイ、ツレダカラ差戻ノ外ハナイト云フ御議論ガ起ルカ知リマセヌガ、併ナガラ已ニ大審院ニ結ビ附ケル御趣意ナラバ、他ノ控訴院ニ結ビ附ケル考ヘモ必要デアラウ、又折角上告シタモノダカラ、異ナル裁判所デ公平ナル裁判ヲ受ケサセルコトガ必要デアラウト思フ、何故ニ控訴院ヘ結付ケルヤウニ作ラレナカッタカ

○政府委員(森田茂吉君) 唯今ノ花井君ノ御議論ニ就キマシテハ、私ハ寧ロ賛成シタイ位ナノデアリマス、詰リ刑事訴訟法ナリ民事訴訟法ナリニ依ッテ、大審院ヘ來テ、大審院デ破棄スレバ原法院若クバ其他ノ法院ニ移スト云フコトニシタイト思ヒマスガ、臺灣ノ裁判ニ就イテハ、スツカリ事情若クバ法律ヲ異ニシテ居リマス、殊ニ臺灣ノ刑事ナドニ就キマシテハ、刑法バカリデハア

リマセヌ、未ダ外ニ或ハ火藥取締法トカ銃砲ノ律令トカ云フモノガアリマス、ツレ等ノモノハ外ノ控訴院ト云フモノヲ支配シテ居リマセヌ、即チ臺灣ニ於テノ實例ガアリマスカラ、ツコヘ持ッテ來マス裁判ノ上ニ不便ガアルノミナラズ、其裁判官ガ裁判ヲスルニ標準ガ見出し難イ位ナ有様デアリマス、ツレ故ニ民刑訴訟法ノ現在ノ規定ト、多少違フ點ガアリマスケレドモ、臺灣ノ覆審法院ヘ戻スト云フコトニ法律ヲ極メタイ考デゴザイマス

○政府委員(石渡敏一君) モウ一ツ述ベテ置キマスガ、差戻ト事實ノ辯明ヲシナケレバナラヌ、事實ノ辯明ニナリマス證據物ヲ集メナケレバナラヌ、又證人モ出サナケレバナラヌ、故ニ内地ヘ移シテ内地裁判スル時ニハ、臺灣カラ證人ヲ呼ビ證據物ヲ取寄セヌカラヌト云フコトニナリマス不便デアリマス、成程花井君ノ言フヤウナ事實ガアルカモ知レヌガ、證人ヲ喚出シ證據物ヲ集メル場合ニ、内地デハ甚ダ不便デアリマス、又被告人ノ延滞、即チ長ク監獄ニ入レルコトモ氣遣ヒ、ツレカラ差戻スト云フコトヲ考ヘマシタ

○(花井卓藏君) 尙ホ引續イテ御尋致シマスガ、寧ロ事實ノ覆審ヲ再ビスルノデアアルシ、ツレカラ被告人ノ都合ヲ慮ッテカラシテ、差戻スト云フコトニシタト云フコトデアリマスガ、詰リ原ノ裁判所ヘ差戻シテ、原通リノ裁判ヲ受ケタ處デ、唯手續ニ違法ガアルト云フコトヲ改正スルダケデ、此法案ノ二條ハ組立アラレタノデ、他ニハ別段人民ノ當然有スル權利ヲ與ヘルト云フガ如キコトヲ考ヘ、成タケ權利ヲ伸暢サセヤウト云フコトノ、正則ノ法理ニ基イタノデハナイカ

○政府委員(石渡敏一君) 左様ナ譯デナイ、裁判官ガサウ私シスルモノデナイ、自分ノ裁判ヲ破ラレタラ、法律上其點ガ惡ルカッタラバ、其點ヲ改メテ大審院ノ意見ニ從ッテ、新ナル裁判ヲスルデアラウト思ヒマス、事實ニ於テ或ハサウナラナイコトガアルカモ知レヌガ……

○(久米民之助君) 私ハ法律ハ暗イガ、臺灣ヘ戻スト云フノデ、ツレヲ内地ノ控訴院ニ移スコトハ都合デスガ、是ハ法律上サウ云フコトガ出來ルカ出來ナイカ、私ハ素人デ分ラヌガ、隨分臺灣ノ裁判ハ餘程危險デアル、今日マデノ經驗上——野間サンナドハ御存デアアルガ、臺灣ノ裁判ヲ破棄シテ臺灣ヘヤルト云フコトハ餘程劍脊デアル、隨分法律上或ハ憲法ヲ蹂躪スルヤウナ行動ガアリマス、ツレデスカラ此原ノ大審院ヘ、高等法院ト云フヤウナ大審院ノ方ヘ上告スルト云フコトモ宜カラウト思フ、ケレドモツレハ或ハ内地ノ控訴院ニ移シ、或ハ時宜ニ依ッテ臺灣ノ覆審院ニ戻スト云フコトニシタラ宜カラウ、臺灣ニ限ラナイ、大審院ノ見込ヲ以テ内地ノ控訴院デ裁判セシメ、或ハ

原裁判ヘ戻スト云フコトニシタラバ、詰リ内地人ガアチラニ往ッテ犯罪ヲシタトキハ、内地ノ長崎ナリ仙臺ナリ何處ナリノ裁判ニ送り、臺灣ノ土人ハ不便ダカラ、向フデ受ケサセルト云フコトニシタラ宜カラウト思ヒマス、ツレデ遠イカラト云フケレドモ、長崎ノ如キハ臺灣カラ一日半デ來ラレル、今日遠イト云フコトヲ云ヘバ、函館ノモノヲ東京ヘ移スヨリハ便利デアル、遠イ

ト云フ點デ證人云々ト言ハレルハ、薄弱ナ議論ト思ヒマス

○政府委員(森田茂吉君) 事實ハ今申シタヤウデスガ、實際臺灣ノ律令ト云

フモノハ、事實臺灣限リヨリ行ハレナイ、所ガ其律令ニ違反シタメニ大審

院へ上告スル、其上告シタノ内地ノ裁判所へ持ッテ行ケバ、内地ノ裁判所

ハ日本内地ニ行ハレナイ法律ヲ適用セヌナラヌコトニナルガ、是ハドウシテ

モ出來ナイ、即チ臺灣ニシカ行ハレナイ律令デアルカラ、ソレヲ持ッテ行ッ

テヤラウト云フコトハ、餘程不都合ダラウト思ヒマス、詰リ事實臺灣デ出來

ル律令ナリ法令ト云フモノハ、裁判官ハ皆心得、慣習モ知ラナクテハナラヌ、

ソレカラ風俗モ知悉シナケレバナラヌ、サウ云フヤウナコトハ、非常ニ被告

人ニ不利益ニナルデアアラウ覆審院ニナリマシタ所ガ一部ヲ置キマスカラ、前

ノ部デヤッタモノハ後ノ部ヘ移スト云フコトモ出來マスカラ、殊ニ大審院ヘ

出テ來タリスルモノハ僅カナ人デスカラト臺灣ノ土人ハ再審ニハ來ラレナ

イ、即チ二百五十萬以上ノ土人ハ、大審院へ上告トカ或ハ再審ニ來ナイ、民

刑訴訟法ヲ行ッテ居ルノハ、内地人ト外國人ニ行ッテ居ルカラ、其人ハ極ク僅

ナ人デス、僅ナ人ニ不便ナク權利ヲ伸暢セシムルコトハ望マシイガ、今申ス

ヤウニカナカナ出來ヌコトデアアル、殊ニ内地ノ裁判官ガ臺灣ノ律令ヲ知ラナ

ケレバナラヌ、慣習モ知ラナケレバナラヌト云フコトニナッテハ困リマス

○(花井卓藏君) 唯今久米サンノ御議論ニ依ッテ、私ガ發見シタノデナイ、

私モサウ云フ考ヲ持ッテ居リマスルガ、政府委員ノ御答ノ律令ト云フモノハ、

臺灣ノミ行ハレルモノデアアル、故ニ若モ移送ヲ他ノ裁判所ニスルコトニナ

リマス、他ノ控訴院ノ判事ト云フモノハ、律令ト云フモノヲ知ラナケレバ

ナラヌ、言葉ヲ換ヘテ云ヘバ、律令ガ内地ニ行ハレルガ如キ關係ニナルト

云フ説明ハ、一應尤モト思ヒマス、故ニ大審院へ結付ケル理由トシテ、此法

案ヲ提出シテ參リマシタ、サレバ此法案ヲ修正シテ、矢張控訴院へ結付ケル

ヤウニナレバ、矢張久米君ノ言フ通りニシテモ差支ナイ、大審院ニハ律令ガ

行ハレルガ、控訴院ニハ行ハレルト云フノハ、誠ニ奇觀ヲ呈スル御答辯デハ

ナイカト思ヒマスガ、全クサウ云フ御趣意ナノデスカ

○政府委員(森田茂吉君) 今モ云フ通り、控訴院ト云フモノハ澤山アリマス

實際云フト、今モ申上ゲマス通り、不便デモアリ、或ハ總テ律令ヲ知ラナケ

レバナラヌト云フヤウナ關係カラシテ、先ヅ大審院ダケニ結付ケサセテ、サ

ウシテ差戻ス場合ニ覆審院ニヤルト云フニ止メ、是非ヤラナケレバナラネバ、

此法案通り覆審院ニ結付ケルト云フ法律ニ對シテモ差支ナイガ、事實上甚ダ

不便利デハナイカ、ソレカラ被告人ノ煩雜、所謂證人ノ呼出、或ハ其他ノ關

係ニ於テ餘程不便ノ點ガアルカモ知ラヌト云フノデ、原法院ニ戻スト云フコ

トニシタノデアリマス

○(花井卓藏君) 覆審法院ト云フモノハ、二部ニナサルト云フコトデアリマ

スガ、ソレハ民刑二部デスカ

人ヲ殖シテ部ヲ殖スト云フダケノ考ヘデ、其部ハドウ云フ有様ニスルト云フ

コトハ、マダ極マッテ居マセヌ

○(花井卓藏君) 例ヘバ甲ノ部デ裁判ヲ受ケタノ上告シテ破毀セラレタ場

合ニ差戻サレタラバ、元ノ甲ノ部デセズ、乙ノ部デスルト云フ位ノコトヲ附

ケル事實ダケハ、移送ト云フ旨意ニスル考デスカ

○政府委員(森田茂吉君) サウデス

○(花井卓藏君) ソレカラ此第六條デス、此中ニアル執行方法ト云フノハ、

ドンナノデスカ、現在……

○政府委員(森田茂吉君) アスコデハ執達吏トカ執行スル役人ノ事デアルト

云フモノハ、別段ニ規則ガ出來テ居マスカラ、此規則ニ依ラセルコトデ、當

リ前ヘ何モ書イテアリマセヌナラバ、大審院ノ方ハ即チ現在御承知ノ執行方

法ニ依ラナケレバナリマセヌガ、アチラデヤルノニハ、アチラノ執行方法ニ依

ラナケレバ、往カヌト云フコトヲ歌ヒマシタノデス

○(花井卓藏君) 最後ニモウ一ツ御尋ネ致シマス、石渡君ノ御答辯ノ中ニ、

覆審法院ニ差戻サレタ所ノ覆審法院ハ、大審院ノ判決ニ羈束セラレナケレバ

ナラヌ、羈束セラレバ之ヲ例セバ同一ノ裁判官デモ別ニ心配ハナイ、元ノ

通ニ裁判ヲスルコトハアルマイ、或ハ實際不道理デアレバ、元ノ通ニナルカ

モ知ラヌガ、殊更ニ元ノ裁判ヲ維持スルコトハアルマイト云フ説明デアリマ

シタ、併シ刑事訴訟法ノ二百六十九條ノ第一項ヨリ十項マデハ、破毀スベキ

原因ガ揭ゲテアリマス、其一番末ニ「擬律ノ錯誤アルトキ」ト云フノガアル、

是ハ大審院自ラ裁判ヲ爲スノデアアル、其他ノモノハ大審院ノ意見ヲ表白シテ、

他ノ裁判所ヲ羈束スルヤウナ、事項ハ一モナイ、ソレデゴザリマスカラ、石

渡君ノ云ハレタ、差戻サレテモ大審院ノ意見ニ羈束サレルト云フノハ、此第

十項ヲ除クト、何ニアルカ、若シモサウ云フダケノコトヲ云フノデ、刑事訴

訟法カラ見レバ、全ク間違ッタ御旨意ノ答辯デアルカト云フノヲ聞イテ置キ

タイ

○政府委員(石渡敏一君) サウシマス大審院デ以テ法律上ニ付イテ爲シタ

ル意見ハ、下級裁判所ヲ羈束スルト云フノハ、法文ニ據所ガアルカ無イカト

云フ御問デスカ

○(花井卓藏君) サウデハナイ、ソレハ御尋ヲセナクテモ能ク分ッテ居リマ

スカラ、御安心下サイ、私ノ問ヒマシタノハ、之ヲ戻シテモ心配ナイト云フ

コトヲ度々仰ッシヤッタ、何故ニ心配ガナイカト云ヘバ、大審院ノ意見トシ

テ、或ハ判決文ヲ書現ハスカラ、其意見ニ下級裁判所ハ羈束セラレルニ相違

ナイ、民事訴訟法ノ上カラ云ヘバ、其議論ニ御同意申スガ、併ナガラ刑事訴訟

法ノ二百六十九條ノ第十項ニ掲ケテアル擬律ノ錯誤ト云フ場合ハ、大審院ハ

直チニ裁判ヲセヌト云フ規定ナレバ、同意ヲスルガ、大審院自ラ裁判ヲスル

備アルトカ、法律ニ背イテ控訴ヲ受理シタト云フヤウナコトヲ除ケバ、何モナイ、被告ガ上告ヲシテ參リマスノハ、色々ニ工夫ヲシテ考ヘテ、上告ヲスル、併シ救済ヲ得ムト云フ主タル判決ノ實體ト云フモノヲ變ヘテ貫ヒタイ、其實體ト云フモノニ附イテ、審理ヲ受ケタイト云フニ止マルガ、サウ云フコトハ大審院ハ云フコトガ出來ナイ、半分事體デ行ク場合ハ、擬律錯誤デアルカラ移送セズ自分デ裁判スルカラ、羈束スベキ意見ハナイガ、アナタノ仰ッシヤッタ羈束スル意見ト云フノハ、ドウ云フノカト云フコトヲ尋ネルノデス

○政府委員(石渡敏一君) 差戻ス場合ニハ臺灣法院ノ裁判ガ惡イカラ破ル所ノ理由ト云フモノガアル、其理由ハ臺灣法院ニアッテ羈束スル效力ガアル、自分デ全部ヤッテシマフ場合ニハ、差戻ス場合ガナイ、唯差戻ス場合ニハ、相當ノ理由ヲ附シテ差戻ス點ハ、臺灣法院ヲ羈束スルコト云フノデ、ソレカラチヨット先程御議論ノヤウデシタガ、質問シテ御答ヲシテ置キマスガ、久米君カラノ御話デゴザイマシタガ、臺灣ト長崎ノ間ハ極ク近イ内地ノ箱館ヨリ近イト云フ御話デゴザイマシタガ、事實サウカモ知レマセヌ、ソレハ臺灣ノ極ク近イ所ト、内地ノ近イ所ノ點ヲ取ッテ、御話デハナイカト思フ、臺灣ノ奥ノ方カラデモ、一日デ内地ニ來ラレルトハ思ヒマセヌ、アノ廣イ所カラ人ヲ内地マデ引張ッテ參ルニハ、非常ノ日數ヲ要シマス、サウスルト極ク近イ場合モアルカモ知リマセヌガ、全體カラ取りマシタナラ、内地ヘ人ヲ寄越スニハ、困難ナ話デアルカラ、原院ヘ差戻スガ宜カラウト思ヒマス

○(野間五造君) 此臺灣ノ法案ニ付イテハ、贊成デゴザイマスガ、其贊成ノ理由ヲチヨット簡單ニ申述べマスガ、自分ハアチラデ法律ノ御厄介ニ長イ間ナッテ居リマシタカラ、實際ヲ能ク知ッテ居ル、一體臺灣ニ向ッテ終審ノ裁判權ヲ與ヘルノハ、實ニ危險デアッテ、今日ハ法官ト云フ己人ノ上カラ云ッテモ、山口洪武トカ云フ良イ判官デアリマスカラ、アチラノ辯護士モ大層喜ンデ居ルガ、前ニ來テ居ッタ高野ト云フヤウナ馬鹿野郎ガヤッテ來テ、ソレデア、云フ者ヘ終審ノ裁判權ヲ與ヘルト云フニ至ッテハ、咄々怪事ト云ハナケレバナラヌ、吾々憲法保障ノ下ニ立ッテ居ルモノハ、最後ノ判決ダケハ、高等ノ立派ナ完全シタ處デ受ケタイト云フ考ヲ持ッテ居ル、處デ此度此法案ガ出テ、權利ノ保障トシテ大審院ヘ最終ノ判決ヲ移サレタノハ、是マデ臺灣ノコトニ付イテ提出サレル法案ハ、多クハ完全シタモノガ多イノデアアルガ、其中ニ於テ稀ニ見ル宜イコトデアルト、自分ハ信ジテ贊成ヲスルノデアアル、如何ニモ臺灣ニ居住シテ居ル所ノ吾々内地人ハ、憲法ノ保障ニ依ッテ十分權利ヲ伸ベ得ラレルヤウナ仕組ヲ益々取ッテ貰ラウト云フコトヲ希望スルノデアリマス、併ナガラ豫審判事ガ自分ガ最初惡ナリト極メタ以上ハ、公判デ善ナリト云フコトハ出來惡クイ……

○委員長(新井啓一郎君) ソレハ條項ノ修正ニナリハ致シマセヌカ、今ノアナタノ議論ノ意味ハ……
○(野間五造君) イヤ、サウデナイ——ダカラシテ成ルベク變ッタ人ニ再審

ヲシテ貫ハナケレバ、折角再審ヲスル功能ガナイ、是ハ花井君ノ先刻御話ノ通りデアリマスカラ、之ヲ救済スル途ハ、久米サンノ御説ノ如ク大審院カラ他ノ裁判所ヘ移スト云フノガ妙案ト思ヒマスカラ、ドウカサウ云フ風ニ御修正ニナッテ、ソレデ矢張終審ノ判決ハ、大審院ニスルト云フ此法案ヲバ飽迄貫イテ貫ヒタイト云フコトヲ希望スルノデス

○(花井卓藏君) 私モ贊成ノ意見ヲ述べマス、贊成ノ理由ハ第一ニハ法律六十三號ト云フヤウナモノガアリマシテ、サウシテ立法ノ大權ト云フモノヲ委任サレテ居リナガラ、臺灣ニ向ッテ三審裁判所ヲ設ケルト云フコトガ出來ナイト云フノハ、折角委任ヲサレテ居ル立法ノ範圍内ニ於テ裁判制度丈ハ、ドウモ是丈ハヤル力ガナイト云フコトヲ表明サレタ御殊勝ノ念ニ免ジテ、一ツハ贊成ヲ致シマス、第二ニハ總テ法律ハ統一ヲ計ルガ第一デアルコトデ、此理由書ニモ明カニ掲ゲテアルノニ、一面ニ向ッテ六十三號ニ基キタル裁判所ヲ設立シ、又他ノ一面ニ向ッテハ、六十三號ヲ外ニシタル裁判ヲ認メルト云フヤウナ事柄ハ、世界ニモナイ例デ、他日法理學ヲ研究スル參考ニモナルト思フ趣意カラ贊成致シマス、第三ニハ第二條ノ法文竝ニ第五條ノ後段ノ法文ノ如キニ至リマシテハ、殆ド刑事ニ關スル上告ト云フモノヲ無視シタ法案ト見エマスガ、是モ段々御開合ヲシテ見マスト、其理由トシテ、ドウモ證人ノ呼出、罪人ノ傳遞ト云フ事柄ノ不便ガアルカラ、其不便ヲ忍ビモヤラナケレバナラヌト云フ必要ハナイカラシテ、此儘ニシテ置クト云フ御説明デ、斯ノ如キ御説明ハ言換フレバ法律ノ與ヘタ權利ハ便宜ヤ經費ノ都合デ、ドウデモ宜イト云フ古來ナイ新例ヲ開イタモノデアリマスカラ、是モ他日法理ノ研究上參考ニナル考ヨリ贊成ヲシテ置キマス、第四ニハ此法律案ノ全部不完全ナルコトハ、今マデ質問ヲシマシタル數點ニ付イテモ分ル、ソレカラ又六十三號ト云フモノ、不理不法ナルコトモ、其當時ノ速記録ニ依ッテ分ル、凡ソ斯ノ如キ不理ノ法律ノ出ル折ニハ、其結付モ不理ナルコトヲ以テスルト云フコトハ、誠ニ結構デアリマスカラ、是モ私ハ贊成ヲ致シマス、ソレデドウモ久米君ノ御議論ナドハ、大贊成デアアル、眞ニ大贊成デアアルガ、折角左様ナ宜イモノヲ一ツヤ二ツ集メタ所デ、法律ノ趣意ガ一貫スル譯デナシ、矢張玉石混淆ト云フヨリハ、玉々混淆石々混淆ト云フ方ガ宜イカラ、私ハ唯今マデノ趣意デ、此案ニ贊成ヲシテ、久米君ノ趣意ニ反對スル譯デアリマス、併シ數千年ノ後ニ是等ノ法理ガ法學社會ニ歡迎セラル、ヤ否ヤハ知リマセヌガ、私ハ兎ニ角サウ云フ意味デ贊成致シマス

○(丸山巖峨一郎君) 私ハ大體ニ於キマシテ眞面目ニ此法案ニ贊成致シマス、殊ニ費用ノ點ヨリシテ大審院ニ終審ヲ持ッテ來ルノハ、誠ニ過ノ功名デ、却テ宜イコト、思フ、ソレハ野間君ガ云ハレタ通り、大審院ト云フモノガ、全體ノ終審ノ判決ヲナスベキ適當ノ裁判所デアアルカラ、臺灣ノ大審院ニ上告シ得ベキ事件ニ對シテ、之ヲ大審院ニ上告スルコトヲ得セシムルノハ、甚ダ適當ノコト、信ジマス、差戻シナドノコトニ付イテ、彼此議論モアリマシタガ、

差戻ノ場合トシテハ決シテ單ニ事實ノ點ニ付イテハ、大審院ハ之ヲ差戻ス場合ハナイト思フ、其原因ハ破棄デアルカラ、詰リ法律上ニ原因シテ居ル、ソレデアリマスカラ、大審院カラ之ヲ差戻スト云フ事柄ニ付イテハ、差シタル論モアリマセヌカラ、其事件ハ其風土人情ヲ能ク知悉シテ居ル裁判所ニ持ッテ行ッタ方が穩當ト信ズル、簡單ニ贊成ノ意見ヲ述ベテ置キマス

○委員長(新井啓一郎君) サウスルト別ニ反對ノ御議論ハナイヤウデアリマスガ……

○(野間五造君) チョット意見シヤナイガ、政府委員ニ御注文申シマスガ、修正説ガ成立ッタトシテ、此儘ニ本案ガ成立スル場合ニナルトキニハ、覆審院ニ差シテ還ッテ來タモノヲ成ルベクダケハ、元ノ裁判官ノ手ニ掛ケナイヤウニ改メテ、即チ別ノ裁判官ノ方ノ手デ判決ヲ與ヘルト云フコトニ、ドウガ御盡力ヲ願ッテ置キマス

○政府委員(森田茂吉君) 經費ヤ何カノ點デ高等法院ヲ置クコトガ出來ナクテ、大審院ニ上告セシムルコトニナッタノハ、誠ニ結構ナコトデゴザイマス

○委員長(新井啓一郎君) 大體異論ハナイヤウデアリマスカラ、可決シタモノト認メマス——筆記ハモウ宜シウゴザイマセウ、花井サン、ドウデス

○(花井卓藏君) モウ宜シウゴザイマス

○委員長(新井啓一郎君) ソレデハ筆記ハモ一宜シウゴザイマス

午後三時十二分速記ヲ止ム

明治三十二年二月三日印刷

明治三十二年二月四日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局